

令和2年度使用小学校用教科用図書の採択結果等について

採択地区名 江田島市

種 目	発行者	採 択 理 由
国 語	光村	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年で学習する事項を数カ所に分けて「情報（じょうほう）」として示している。 ○第3学年「読むこと」を扱う物語文の学習の手引きによる学習の進め方は、個別→対話→発展的な学習についての対話となっている。 ○第3学年の教材については、話す・聞く(5)、書く(5)、読む(12)の単元で、1つの領域に集中して学習する単元が多い。学習事項がはっきりして分かりやすい。 ○第5学年の説明文の単元については、イラストや写真とともに、本文記述との効果的な関連付けがなされた図表やグラフが多く掲載されている。 ○全学年において図書館の活用について示されており、学年に応じた利活用を促している。
書 写	光村	<ul style="list-style-type: none"> ○第3学年「ひらがな」の扱いは、漢字と平仮名の筆使いを比較させ、その相違点を発見させることを主たるねらいとし、平仮名を書く際の力となるようにしている。 ○第4学年「生かそう」の過程では、硬筆を取り入れている。 ○それぞれの単元で学習したことが硬筆ページとしてまとめられており、既習の筆使いを確かめることができる。 ○第3学年の毛筆の手本及び筆使いの提示については、「おれ」「はらい」「点」などの部分を大きく取り上げて、ななめの穂先や筆圧をマークや言葉、数字で表示している。イラストもあって分かりやすい。また、穂先の向きの良い例と悪い例が示されている。 ○全学年において、教科等に広げることが意図したページがあり、教材の種類が豊富である。また、第6学年で「書写ブック」という綴じ込みページがあり、6年間で学習したことを日常で生かすこつを振り返ることができる。
社 会	東書	<ul style="list-style-type: none"> ○第4学年の都道府県の学び方として、「都道府県の特産品」で、各都道府県の特産品を地図中に絵で例示し、「空から日本を見てみると」で、各都道府県の海、山、川、湖等の地形を示している。また、「都道府県の特産品」「空から日本を見てみると」で、各都道府県の形をカードにして、都道府県名を記入できるようにしている。 ○第5学年の日本の位置と領土についての扱いは、日本の領土と領海についての地理的環境や位置を写真や図で簡潔に掲載しており、分かりやすい。 ○学びのポイントとして第6学年では、「政治・国際編」の最初の単元の中程に、見開きで「学習の進め方」のページを設け、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習の進め方を示している。 ○体験的な学習を実施するための工夫として第6学年では、「ひろげる」の学習の中で「室町文化を体験してレポートを書こう。」というページを設け、茶の湯体験の様子と児童のレポートを例示しており、目的意識を持たせる工夫がある。 ○第6学年は、政治・国際編、歴史編の2分冊となっており、各分野での違いと関連を意識しやすくしている。 ○第4学年の自然災害から人々を守る活動については、「ひなん所シミュレーション」で、地震が起きて、学校が避難所になった場合、自分はどうするかを様々な立場から考えさせている。

種 目	発行者	採 択 理 由
地 図	帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○読図に関しては、「地図って何だろう」と「地図のやくそく（１）（２）（３）」で方位，地図記号，距離と縮尺について説明し，その後，「地図の使い方（１）（２）」で地図記号，土地の高さの表し方，索引，縮尺について説明するとともに，具体的な活用の仕方を例示している。〔使用ページ数…12 ページ〕 ○巻頭の「世界発見！」で民族衣装・あいさつの言葉を掲載している。巻末の「世界の国々」で世界の国々の国旗を，世界の各地方図で，地域の国旗や特色を示すイラストや写真等を掲載している。 ○各地方図で，広島市の原爆被害状況，札幌市中心部の雪の多い都市の工夫等，各地域の特徴的な内容を紹介している。 ○巻末の「日本の自然災害と防災（２）」では，防災マップの例を示しながら防災マップづくりの手順を示し，体験的な学習を例示している。 ○全般にわたって，「地図マスターへの道」で，学び方や調べ方等の簡単な作業を指示し，資料活用の仕方を示している。 ○日本の自然のようす，日本の自然災害と防災，日本の産業のようす，日本と世界の結びつき，日本の歴史と世界文化遺産について資料図で示している。
算 数	学図	<ul style="list-style-type: none"> ○第４学年の「数量の関係を表す式」の扱いは，２つの考え方を比較しながら考えていく流れになっており，ねらいに迫りやすい。 ○第１学年の「100 より大きい数」の扱いは，空位のない数から扱っており理解しやすい。 ○第４学年の「折れ線グラフ」の扱いは，単元の導入において場面設定をし，興味関心を高める工夫がある。 ○全学年でプログラミング活動を設定している。 ○学習の流れは，「主体的な学び」（「問題」「解決したいな」「考えたいな」「比べたいな」等），「対話的な学び」（「話し合いたいな」，「説明したいな」），「深い学び」（「深めたいな」，「つなげたいな」）となっており，主体的，対話的，深い学びの３つの学び方で学習を進める設定になっている。
理 科	啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ○単元末の「ふり返ろうまとめノート」では，学習内容のまとめの例が示され，学んだ内容が分かりやすく整理されている。「新しく学習した言葉」では，学習した理科用語が示され，自己チェックができるマークを設けている。 ○第３学年の「身近な自然の観察」は，多様な動植物に気付かせる工夫をしている。動物と植物を分けたイラストを掲載することで，動物も植物も生き物であることを示している。 ○問題解決の過程の示し方は，予想・計画を児童に考えさせるのに適した進め方になっている。また，問題解決のための思考の流れが矢印でつながっており，視覚的に分かりやすく，問題とまとめのマークの色を揃え，問題とまとめがリンクする表示になっており，分かりやすい。 ○年間ガイダンスの記載はないが，「これまでの学習をつなげよう」では，学習した内容をまとめた説明があり，次年度へのつながりもみられる。 ○第６学年「発電と電気の利用」は，実生活における例を示し，プログラミングの構造を「条件と動作」で考えさせており，児童に理解させやすい。

種 目	発行者	採 択 理 由
生 活	東書	<ul style="list-style-type: none"> ○住みか・餌等の飼育方法が示されている生き物は、上巻が3種類、下巻が4種類である。 ○上巻の観察カードについては、観察カードを書かせるために「比較」の視点を与え、違いや変化に気付かせるように働きかけている。また、「かんさつずかん」のページで、観察の仕方やカードの書き方等を示しており、絵や文章をかく時の参考になる。 ○スタートカリキュラムに関する内容は、13 ページ掲載しており、入門期の児童に分かりやすい内容になっている。また、「つながるひろがる」のページで、合科的・関連的な学習活動を示すとともに、「こんなにできるようになったよ」のページで、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を児童に示すとともに、保護者向けの説明も掲載している。 ○Web ページに情報があることを示す「D マーク」を掲載。また、花の生長を比較できるようにページが工夫してある。 ○下巻では、調べたことの伝え方や発表会において、相手意識や目的意識を明確にもたせており、児童の発表の言葉が掲載されている。
音 楽	教出	<ul style="list-style-type: none"> ○第3学年の旋律や変化等を扱った鑑賞の題材では、学習目標を「せんりつのへん化をきき取りながらバイオリンのえんそうを楽しもう」と横書きで記載するとともに、「せんりつ」「へん化」「バイオリン」という言葉に色がついており、児童が何について学ぶのか、意識しやすい。また、旋律については、旋律の変化について記述する「メモ」の欄があり、音楽の要素「せんりつ」「音色」「反ぶく」「へん化」の言葉を示しているため、旋律の特徴を体感する手立てがある。 ○第4学年の歌唱教材「ゆかいに歩けば」では、スタックートの歌い方について、「かたを楽にして、おなかに手を当てながら歌ってみよう」や「『ゆかいに歩けば』の前半の部分をピ、ポ、マなどの言葉で、歌ってみよう。」と歌い方を示している。また、児童の写真で、スタックートで歌う時の目や口の開き方、腹部の様子を示しており、分かりやすい。歌うときに、表情等をまねることができる。 ○リコーダー学習の導入では、構えたときの姿勢について、構えた時の斜め正面、右横、左横からの児童の写真を掲載しており、分かりやすい表記となっている。また、サミングについて、第4学年で写真と言葉で、親指を下へ滑らせる方法と親指を少し曲げる方法を示している。また、「ハローサミング」の曲のどこでサミングを使うのか、楽譜に ミ→高ミ（滑らせる方法）と、高レ→高ミ（親指を曲げる方法）を2つの方法を写真と言葉で記載しており、分かりやすい。 ○音楽づくりに関して、第3学年の「みんなで 合わせて」では、学習過程が簡潔な言葉で示されており、児童にとって分かりやすい。 ○音楽の特徴をとらえさせる指導の工夫として、第3学年「ふじ山」や第6学年「バイオリンとピアノのためのソナタ」においては、体を動かしながら音楽の諸要素を体感していく記述がある。 ○第5学年の鑑賞を扱った教材では、友だちと感じたことを共有し、学習を深める記述がある。また、巻末の「音楽を表すいろいろな言葉」（第2学年～第6学年）は、音楽の諸要素ごとに例示しており、自分の思いを表現する際に活用するのに有効である。

種 目	発 行 者	採 択 理 由
図画工作	日 文	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りについては、題材を終えた後、感じてほしいことを児童のつぶやきの形で例示しており、振り返りがしやすい。 ○〔共通事項〕を視点とした学びの示し方については、全ての題材に活動と〔共通事項〕を結び付けられるようキャラクターを設定し、発想のヒントを与えたり、学びを促したりしている。 ○導入の文の示し方と具体例については、第1・2学年上「やぶいたかたちから うまれたよ」等において、児童の興味・関心を高める文章とともに、活動の概要を端的に表しており、分かりやすい。 ○鑑賞の対象と示し方として、巻頭の折り込みページ「教科書美術館」で、作家作品の詳細まで鑑賞できるように大きく掲載するとともに、各学年に表現や体の感覚や操作を伴う鑑賞の題材を設定している。また、第3学年～第6学年には、「図画工作のつながり ひろがり」のページで、作者の表現に込めた思いや美術館とのつながりなどを伝えている。 ○作品や造形活動の示し方と具体例については、第5・6学年上「糸のこスイスイ」等において、作品や造形活動について、題名や作者の考えや感想を詳しく示しており、分かりやすい。 ○発想や構想、鑑賞の場面における言語活動の示し方、具体例については、各学年において、作品に込めた自分の思いや、それを実現するための工夫を紹介しており、児童が作品について話し合う時のヒントになる。
家 庭	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○「1 見つめよう」→「2 計画しよう・実践しよう」→「3 生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3つのステップで構成されているだけでなく、小単元のすぐ上に全て記載されているので、児童が主体的に学べる。3ステップを繰り返すことで、学習の見通しを持ちやすくなるとともに、学び方を身に付けさせることで、実生活に活用できるようにしている。また、小題材の下には、「めあて」のマークとともに、めあてが示されており、分かりやすい。 ○レポートや新聞、スクラップブック形式、ポスター形式でのまとめ方を掲載し、児童が参考にしやすい。 ○「A 家族・家庭生活」は、9 題材、「B 衣食住の生活」は、10 題材、「C 消費生活・環境」は、3 題材、計 22 題材である。関連のある学習内容を一つの単元に組み込み、関連付けて配置しており、児童に家庭生活をよりよく工夫しようと意識させやすい。 ○第5学年の大単元「物を生かして住みやすく」では、活動「やってみよう」として、整理整頓とともに、掃除の手順を学習することができるようになっている。児童が、家庭で実践しやすい工夫がある。 ○学習上参考となる資料等に「図1」「活動1」「資料1」と書いてあるため、全体指導の際に指示しやすい。また、写真、イラスト、図等が段階を踏んで順序良く示されているとともに、道具等をよりよく使うための注意が分かりやすく掲載されている。 ○主に「活動」のマーク（話し合おう、調べよう、考えよう、やってみよう、深めよう、交流しよう）で示されているところで、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を取り上げている。

種 目	発 行 者	採 択 理 由
保 健	学 研	<ul style="list-style-type: none"> ○食育・安全・体力向上に関する記述として、「健康な生活」「犯罪被害」「病気の予防」でインターネットの正しい使い方を記載している。また、体力向上についての運動例を記載している。 ○振り返りについては、学習したことを活用する場が設定されており、単元を通してのまとめもある。 ○学習の進め方の示し方を巻頭で示しており、学習の進め方がシンプルで分かりやすい。 ○第6学年「病気の予防」では、パソコンやタブレットと健康について、3分の1ページ程度の記載している。また、がん予防については、1ページ程度掲載し、内容が充実している。 ○「体の発育・発達」に関わる単元については、本文に関連するイラストと写真がバランスよく配置されており、見やすい。また、写真の使用も効果的である。 ○自分の考えを記入する活動の数は、書く活動(29)、話し合う活動(10)であり、書く活動と話し合う活動が精選されている。
英 語	学 図	<ul style="list-style-type: none"> ○第6学年「助動詞 can」については、4単元で can を使用しており、自分のことを表現する活動の中で使用されている。他の3単元では、can の入った英文を聞いたり、読んだりする活動が設定されている。 ○振り返りについては、学習した単元ごとに振り返りを行い、4観点を3段階で振り返る。4観点の振り返りの視点が具体的で自由記述の振り返りもある。 ○第6学年「夏休みの思い出」では、「読むこと」と「書くこと」は単元に関する表現を扱い、小単元の最後に段階的に取り組ませる構成である。 ○言語活動は、単元の終末に、4技能全てに関連する活動を設定している。また、5つの単元を学習した後に、5つの単元で習得した知識・技能を統合的に活用する活動を設定している。
道 徳	日 文	<ul style="list-style-type: none"> ○教材「手品師」(第6学年)については、発問は4つで、前段、後段の発問が記載されており、価値葛藤で多面的、多角的に考えることができる発問である。 ○問題解決的な学習に適した教材には、目次及び該当ページにマークをつけて示し、教材の終わりに「学習の手引き」を設け、学習展開例を示しているのので、問題解決的な学習を展開しやすい。 ○教材集と別冊の構成で、記述欄は別冊にあり、主発問や自分の考えを書く欄に加え、自由記述欄もある。 ○教材とコラムを組み合わせたユニットを設けていじめを考える場を設定しており、目次から、いじめについて考える教材のまとまりであることが分かりやすい。また、第3学年以上ではいじめの構造等を詳しく説明している。 ○巻頭の「道徳の学び方」の中に、話合いの状況を子どもの言葉で示しているので、話合いの具体的なイメージを持ちやすい。また、「心のベンチ」や「学習の手引き」に、考えを伝え合う活動を促す発問があり、活動の流れを具体的に示している。